

## 「設立総会&語り場」概要報告

2021年3月21日(日)14:00~16:30に開催した「任意団体 仁徳地域商会」の「設立総会&語り場」の報告です。将来的にはソーシャルビジネスを目指していますが、当面は、任意団体として発足することとしました。

多くの方々と繋がりたいということで、Zoomを活用した“リアルとオンライン”での開催としました。色々ご支援くださる藤生さんのご協力により、会場ではマイクを使用することで、手探りながらどうにかうまくできたのではないかと考えています。参加者は、会場16名と域外からも「域外プロボノ支援受入事業」(山口県事業)で関わってもらっている2名のプロボノの方にもご参加いただき、計18名の参加を得ることができました。

初めての顔合わせということで、まず自己紹介を行いました。続いて発足の経緯説明や会則(案)、役員(案)、2021年度事業計画(案)の提案を行い、質疑応答に入りました。会費を徴収しないことについては、会費を払ってまで入る人は少ないのではということ、語り場を開催する都度、志をいただくということにしたと説明しました。一定額にした方が、出しやすのではないかとといった意見もありましたが、会員が所属する「徳地ワイガヤの会」での実績もあり、新しいあり方として面白いのではないかと考えています。説明の途中ででてきた「プロボノ」の意味についてのお尋ねがありました。Wikipediaによると、「プロボノとはラテン語で『公共善のために』を意味する pro bono publico の略で、最初は弁護士など法律に携わる職業の人々が無報酬で行う、ボランティアの公益事業あるいは公益の法律家活動を指した」、「各分野の専門家が、職業上持っている知識やスキルを無償提供して社会貢献するボランティア活動全般。また、それに参加する専門家自身」とされています。

休憩の後、初めての「語り場」を開催しました。若き茅葺職人の藤井さんは、資料まで準備され茅葺の現状と今後の活動展開について語られました。こんな若者がいらっしやることに感激しましたし、また心強くも感じました。中山間地域での暮らしを楽しんでいる若者たちを、多く発見していきたいとも強く思いました。

まつたけの復活を希求される市原さんは、里山の整備について順次進めていくので、ぜひ仲間になってほしいと話されました。また宮田さんは竹の活用として竹炭や竹パウダーへの加工について述べられ、さらには鳥獣対応についても触れられました。竹パウダーにする機械を個人で購入されたそうで、貸し出しも

するということでした。内田さんは消滅するかもしれない部落への誇りを失わないために、黄金の集落にしようといチョウの木を植えられたといった話を語られました。予定の時刻はあっという間に過ぎ、参加された皆さんの前向きな話に、いい方向に向かって進むように感じました。

【文責：東孝次】

